

GAKUTOのPOINT 5 SDGs

学びをつなげて考える

気象や大気、エネルギーなど、環境に関わる内容も多く扱っているため、小学校理科において、SDGsの観点と学習したことを科学的な視点で結びつけて子供自らが考えることは非常に有効です。



各学年 裏表紙

できることを考える、行動する

学年が上がるにしたがって、具体的なデータなども踏まえて考える子供が育つよう、いろいろな情報を資料「もっとしりたい」などに掲載しています。

また世界で起きていることを知るだけでなく、**子供自らができることや、身の回りのできることを考える**活動を入れています。

このマークは6年で11箇所入っているよ。

私が取り組みを調べたいものは、17の目標のうちのこと...

ゴミを減らすには...

便利にすることは...

6年 p.212

もっとしりたい 外来生物

人間の活動によって、ほかの地域から持ちこまれた生物を「外来生物」といい、私たちのくらしと深く関わっています。外来生物は管理される必要がありますが、意図せずにけ出した人により放されたりして、野生化してしまう場合があります。これらがもともとの生物（在来生物）を食べたり、すみ場所をうばったりするなど、それまでの「食べる」「食べられる」の関係を変化させる場合があります。現在、外来生物の野生化によってさまざまな在来生物が減少しており、世界中で問題となっています。

モンクシロアカミミガク (北アメリカ)
セウカアワダシソウ (北アメリカ)
マングース (東南アジア)

●外来生物の例 () はもともとした地域

イタセンバラを守る (富山県氷見市)

国の天然記念物であるイタセンバラという魚は、現在野外の主な生息地が、富山平野の一部となってしまいました。この富山県氷見市の川では、イタセンバラが生き残るための環境が残っているのです。

ところがここでもイタセンバラが外来生物であるオオクチバスに食べられていることがわかり、現在保護地を作って守るとともに、オオクチバスの数を減らしながら、残された貴重な生息地を守る努力が続けられています。

イタセンバラ (左がオス、右がメス)

イタセンバラが生息している川

イタセンバラの観察会

74

6年 p.74

もっとしりたい 海の中の森を取りもどす

アマモは、海中の砂地に育つ植物です。アマモは日光を浴びて養分をつくり酸素を出すだけでなく、魚やイカなどの産卵場にもなります。また、小さな生物のすみかにもなり、それらを食べる魚なども集まります。

神奈川県横浜市に面した海岸では、海のうめ立てなどでアマモがたくさん生える場所（アマモ場）が見られなくなりました。そこで現在、種子から育てたアマモのえを海に植え、アマモ場を取りもどす活動が進められています。

アマモに産みつけられたイカの卵

海中で光を浴びるアマモ

新しいえを作るためにアマモの種子をとる

6年 p.80

もっとしりたい 地球温暖化

人は石油などを大量に燃やし、多くの二酸化炭素を発生させています。地球上のいくつかの地点で測定したところ、空気中の二酸化炭素が少しずつ増加していることがわかっています。

近年の調査から、この二酸化炭素の増加が、地球全体があたまるという「地球温暖化」の主な原因だと考えられています。このまま地球温暖化が進むと将来陸地にある氷がとけ、その水が海に流れこむことで海面が上昇したり、気候が大きく変わったりする可能性があります。今、地球全体で二酸化炭素の発生をおさえるよう、努力をしています。

空気中の二酸化炭素の体積の割合の変化

空気中の二酸化炭素の体積の割合 (%)

南極の氷から調べた値
マウナロアで観測した値
地球全体平均

1750 1800 1850 1900 1950 2000 (年)

IPCC 第6次評価報告書統合報告書
アメリカ海洋大気庁 (NOAA) 資料 より

6年 p.207